

# すべては「本物の美しさ」を撮るために

伝説の活動屋、木村大作監督をして「奇跡の映画」と言わしめ、出演俳優が「これほど強烈に何かを与えてくれたものはない」(浅野忠信)、「世界遺産のような映画」(香川照之)、「(撮影時以外も)すべてが映画のよう」(松田龍平)と驚嘆の声を上げた『剣岳点の記』。見る者を圧倒するシーンの連続は、監督、出演者、スタッフらのアリティへの徹底したこだわりと情熱によってもたらされた。

口ヶは平成十九年四月、立山連峰の実景撮影でスタート。九ヶ月間に浅野や香川、仲村トオルら主要キャストを迎える、本格的な山岳ロケを行った。仲村は「ぜえぜえ言いながら登っていると(剣岳は)険しさすら美しかった」と振り返る。

翌二十年四~七月の富山口ヶは、松田龍平を加えた測量隊役の七人全員がそろい、明治時代に剣岳に登頂した測量隊の動きを追体験するよう、俳優陣も実際に歩き、登り続けた。ようやく現場にたどり着いた後撮影が始まる毎日。モロ師岡は「とにかく過酷でした」と苦難のロケを述懐した。

七月十七日には全編のクライマツクス剣岳登頂シーンに臨んだ。足場のない、大きな岩の壁を重い荷物を担いでよじ登つた。「登山靴やヘルメットを着用し、万全の装備で登つたが、初めて山が怖いと思った。立山信仰で恐れられた山だと実感した」と香川。浅野は「とんでもない状況での撮影を乗り越え、動じない人間になれた気がする」と感慨を口にした。

通常、映画撮影は俳優のスケジュールや天候の都合で、シーンの順番に関係なく撮られ、あとでつなぎ合わせる場合が多い。しかし、木村監督は脚本の流れ通りに撮影する「順撮り」を貫いた。最初の撮影で、富山駅に降り立った柴崎芳太郎のこやかな表情が、立山連峰に入り、剣岳に迫った後では、変する。髭が生え、目つきの鋭さが増し、ドキュメント映像のような迫力になった。CGなど画像処理では絶対ではないアリティーがフィルムに収まった。本物にこだわる『剣岳点の記』ならではの撮影方法だ。

長期の山小屋生活は、俳優を含むスタッフ全員に「最後までやり遂げたい」という熱意と連帯感を生んだ。香川は「俳優やスタッフがたましくない」ということでもあった。自然の中でただ撮影がない日は、狭い何もない山小屋で待つだけの日もあつた。「大自然の中でただ待つ」という行為も、俳優、スタッフが仕事を取り組む一休感をもたらす因になった。

撮影現場では木村監督の怒号がよく飛んだ。「怒鳴っているけど、あれは愛のある呼び。撮影と天気との戦いでもあり、その中で瞬間を切り取りたいと思ったらそ

うなる。一つの物を作り上げようとする気持ちが僕はすごく理解できた」と浅野は話した。

雪渓での撮影。悪天候の中でもロケ隊はフィルムを回し続けた

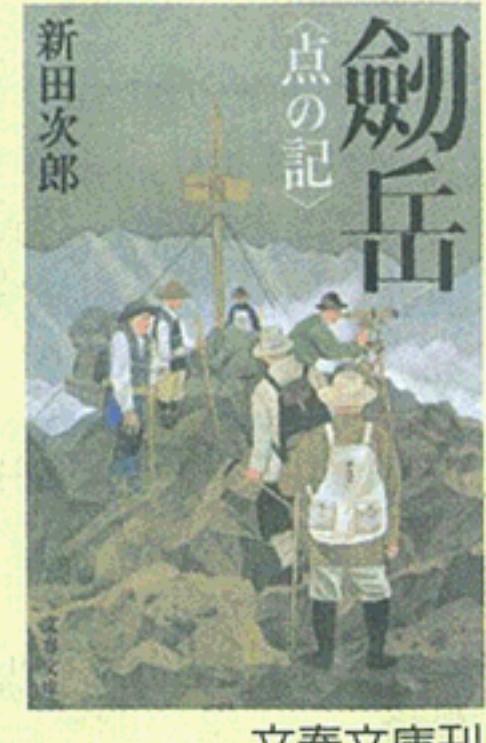


剣岳山頂の危険な岩場でカメラを構える木村監督



撮影現場で、柴崎芳太郎を演ずる浅野忠信と木村監督

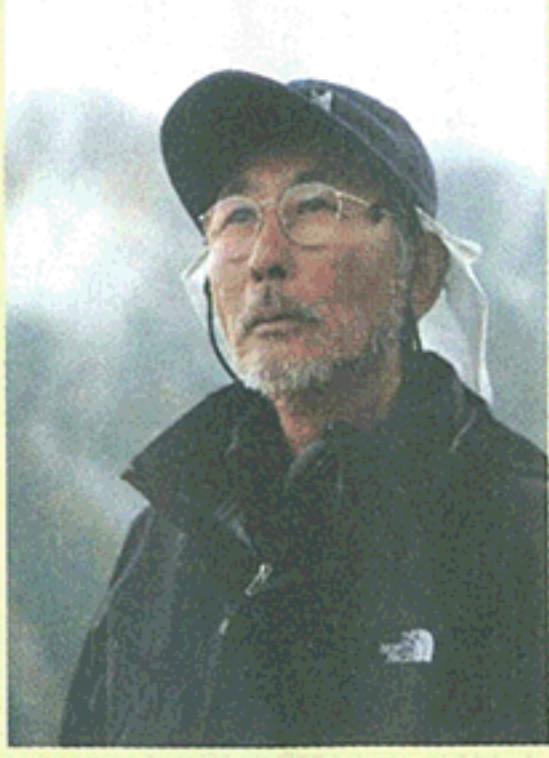
原作 新田次郎



文春文庫刊

にたじろう 1912年長野県生まれ。小説家、気象学者。妻は作家・藤原てい。32年中央気象台(現気象庁)に入る。56年に山岳小説「強力伝」で直木賞受賞。63~65年には気象庁の富士山気象レーダー建設責任者として成功を収める。66年に退職し、執筆活動に専念する。代表作に「八甲田山死の彷徨」「富士山頂」「武田信玄」など。題材として大きな仕事をやり遂げた歴史上の人物や、自然と人間とのかかわりを、写実的かつ力強い描写で表現した作品が多い。80年、67歳で死去。

監督撮影 木村大作



きむら・だいさく 1939年東京都生まれ。58年東宝撮影部のカメラ助手として映画界に入る。73年「野獣狩り」で撮影監督デビュー。以降数々の作品で撮影監督をつとめる日本を代表する映画カメラマン。日本アカデミー賞最優秀撮影賞など受賞多数。代表作は77年「八甲田山」(森谷司郎監督)、80年「復活の日」(深作欣二監督)、81年「駅 STATION」(降旗康男監督)、86年「火宅の人」(深作欣二監督)、99年「鉄道員(ばっぽや)」(降旗康男監督)、2001年「ホタル」(同)など。「剣岳 点の記」で、初めての監督を務める。

誰かが行かねば、  
道はできない。  
日本人の心が  
ここにある。  
富山県を舞台にした  
不朽の名作。

# 剣岳 点の記

6月、映画公開!

主演 浅野忠信 香川照之 松田龍平  
宮崎あおい 仲村トオル 役所広司

我が国最高の撮影監督といわれる木村大作が、自らメガホンをとった新田次郎山岳小説の白眉を、映画公開に先かけて読みやすくした(新版)。

新田次郎 [原作]  
山本甲士 [文]



# 剣岳 点の記

新田次郎

日本地図完成のため、

最後の空白地帯である剣岳の初登頂と測量を命じられた陸軍省陸地測量部の柴崎芳太郎が、

命をかけた魂の記録。山岳小説の永遠の名作!

